

**平成28年度
第2回地域振興会議会長会議事概要**

日 時：平成29年2月10日（金） 13時30分～15時39分
場 所：市役所本庁舎6階 全員協議会室

〔本庁関係〕2名

深澤市長、久野地域振興局長

〔各地域振興会議〕16名

会 長：森原会長(国府)、上山副会長(福部)、竹田会長(河原)、谷村会長(用瀬)
上田会長(佐治)、横田会長(気高)、田中会長(鹿野)、高橋会長(青谷)
総合支所：安本国府支所長、宇山福部支所長、窪田河原支所長、田中用瀬支所長
小谷佐治支所長、鈴木気高支所長、徳岡鹿野支所長、山本青谷支所長

〔事務局〕4名

地域振興局地域振興課：竹氏次長、増田課長補佐、竹森主事、平井主事

【会議次第】

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ
- 3 地域の課題及び進捗状況について
- 4 その他
- 5 閉 会

議 事 概 要

1 開 会 (1 3 : 3 0)

2 市長あいさつ (1 3 : 3 1)

3 地域の課題及び進捗状況について

青谷地域振興会議 高橋会長 (1 3 : 3 5 ~ 1 3 : 5 3)

青谷地域の人口減少対策について

青谷地域は近年人口減少が著しい。原因の一つとして働く場所、企業の不足が考えられる。西地域への工業団地造成について検討を進めてほしい。

また、用瀬地域における鳥取環境大学生による「週末住人」の取組が興味深く、青谷地域振興会議としても注目している。

卓球のまち青谷の復活について

昨年11月、県内外の中学校を招へいし「青谷オープン卓球」を開催した際に、青谷高校OBがボランティアとして協力してくれた。卓球のまちの復活と青谷高校の存続に対する地域住民等の意気込みが伝わってきた。今後は小中高と一般との連携が課題である。

青谷高校のあり方について

今年3月、「青谷高校のあり方を考える会」を発展的に解散し、より課題の深部に迫っていくことを目的とした「青谷高校の活用協議会」を立ち上げ予定であり、行政としても協力してほしい。

委員提案について

青谷地域振興会議では各委員による委員提案に注力しており、伝承産業である和紙の今後のあり方、農業の今後の方向性や医療面での連携について等を検討。地域にとって参考となる点が多く、さらに活発に進めていきたい。

<市長による回答・意見>

・青谷地域の人口減少対策について

本市のみならず、全国的な課題であり、本市では定住人口のみならず、交流人口についても伸ばしていきたいと考えている。企業誘致ばかりが取り上げられる傾向にあるが、地場産業の育成・支援にも注力しており、来年度には「足腰の強い地元産業の実現」を経済対策として掲げていきたい。平成30年の鳥取西道路全線開通を契機として、地元経済の活性化を図っていく。既存の工業団地の進捗状況等を勘案しながら、工業団地の整備を進めていきたい。

・卓球のまち青谷の復活について

本市としてもスポーツの振興について積極的に進めていきたいと考えており、特に卓球については青谷地域と一緒に取り組んでいきたい。

・青谷高校のあり方について

特色のある高校として存続させるために、市としても、地域と一緒に考えていきたい。

・委員提案について

素晴らしい取組と思う。地域活性化のさまざまなアイデアの提案を期待させていただく。

鹿野地域振興会議 田中会長 (1 3 : 5 3 ~ 1 4 : 0 7)

公共交通機関の確保について

路線バスの廃止により循環バスが運行されているが、ダイヤの組み方等に住民の意見が反映しており、地域としてありがたく感じている。

デマンドバスの予約電話を掛ける際に、窓口がタクシー事業者であることを戸惑う利用者もいると聞いている。また、予約者以外は乗れないといったことも聞いており、高齢者にもわかりやすい配慮をお願いしたい。

企業誘致と情報環境整備の検討について

企業誘致や起業の推進にインターネット等情報環境の整備が有効と考えており、ぜひ検討してほしい。

国民宿舎「山紫苑」のあり方について

以前、国民宿舎「山紫苑」のあり方検討会の中間報告があったが、具体的な進捗がみられていない。指定管理者の経営努力がもちろん必要だが、行政としても積極的に関わり、西地域の振興と合わせた山紫苑のあり方

について検討いただきたい。

小中一貫校の推進について

平成30年4月の開校を目指し、校名の募集を行っているところ。今後ともご協力をお願いしたい。

<市長による回答・意見>

・公共交通機関の確保について

公共交通の維持・確保は大きな課題と感じている。デマンドバスは、予約していなくても空席があれば乗車できるはずであり、関係課に確認させる。また予約については、案内チラシ等にわかりやすく記載をしたり、事業者に対し電話応対時の配慮を依頼する等の対応が必要ではないかと考える。

・企業誘致と情報環境整備の検討について

ICT技術の進歩により、本市においても情報通信関連の起業も容易となることが考えられ、環境整備については引き続き事業者に要請する等の対応が必要と考える。

・国民宿舎「山紫苑」のあり方について

山紫苑の整備については、鳥取西道路の全線開通や道の駅の整備等と合わせて、指定管理者と共に具体的に考えていかなければならないと感じている。

・小中一貫校の推進について

福部地域の幼小中一貫校と合わせ、鹿野地域の特色を活かした一貫校となるよう大いに期待している。

気高地域振興会議 横田会長(14:07~14:21)

浜村温泉館について

外来者が入れる温泉設備の存続について、非常に危機感を感じている。施設整備については、結論を急ぐのではなく、検討委員会を立ち上げる等時間をかけて議論していきたい。

総合支所の整備について

支所整備については、早期整備の方向性を出していただき感謝している。

リノベーションスクールについて

気高地域の空き物件のリノベーションについて、若い方が集まりいろいろな素晴らしい提案をしていただき、非常に感激している。これを契機として、地域の活性化につなげていきたい。

<市長による回答・意見>

・浜村温泉館について

浜村温泉館のあり方についてはじっくりと検討を重ね、温泉という気高地域ならではの素晴らしい地域資源を活かした取組としていかなければならないと感じている。まちづくりの一環として、温泉館のあり方を地域の皆様が中心となって考えていただき、行政としてそれを支援したいと考える。

・総合支所の整備について

火災の発生に伴い、皆さまにご不便、ご迷惑をおかけしている。プロポーザルを経て施行業者が決定しており、平成30年度の完成に向けしっかりと進めていきたい。

・リノベーションスクールについて

本市では平成26年度より開催し、今回で4回目である。3日間活発に議論いただき、最終日には素晴らしい提案をいただいた。リノベーションという考え方を地域内で広めることで、地域活性化の契機になることを期待している。

佐治地域振興会議 上田会長(14:21~14:39)

小さな拠点事業について

佐治地域は人口減少や高齢化が新市域の中でも特に進んでいるが、今後も地域に安心して住み続けていくことができる運営の仕組みを作るための協議を始めている。地域振興会議でも活発に議論しており、行政としても積極的な支援と協力をお願いしたい。

公共交通については、生活交通会議において佐治地域の奥部から鳥取駅までの直通バスの運行が協議されている等前向きに検討されている部分もあるが、まだ改善の余地があると考えている。

都会の若者が中山間地域への移住に関心を持っているとの新聞記事があったが、こういったことも含めて過疎対策について指導いただきたい。

どぶろく「どんでん返し」について

国の構造改革特区の指定を受け、昨年11月に販売開始した。現在の製造量は年間800リットルであり、720ml瓶で年間1,100本しか生産できない状態である。この製造量では予約を希望される販売等にも対応できず、商品の評判などに悪影響を及ぼすのみならず、佐治地域のやる気の衰退も懸念される。増産に対応

できる設備整備を検討しており、行政からも支援してほしい。

<市長による回答・意見>

- ・小さな拠点事業について

本市では将来像を見据えたまちづくりの指針である「鳥取市都市計画マスタープラン」を策定している。中山間地域の振興なくして鳥取市全体の活性化はありえないと考えている。

仕事があれば中山間地域に移住を希望する若い方もいると考える。本市では移住定住の取組に注力しており、平成18年9月に相談窓口を設置してから昨年7月までで累計2,000名の移住者があった。(株)宝島社が発行する「田舎暮らしの本」2017年2月号で住みたい田舎ランキング総合1位に本市が選ばれた。地域の魅力を発信しながら引き続き移住定住施策に取り組んでいきたい。

- ・どぶろく「どんでん返し」について

製造量の拡大には冷蔵施設の増設が必要だと聞いている。安定した生産があつてこそ、安定した需要や収益が見込めると思う。本市の様々な補助制度や市有の遊休施設を活用した取組も検討できるのではないかと。

用瀬地域振興会議 谷村会長(14:39~14:49)

総合支所整備の推進について

用瀬支所の庁舎は建物が大きいため、他の公共施設との複合化の協議等に手間取り、意見集約が遅れた。昨年10月の地域振興会議において、老朽化した図書館と複合化しながら現庁舎を耐震改修することに決めた。引き続き協力をお願いする。

防災行政無線のデジタル化に伴う地域内情報の伝達方法について

本庁からも情報提供いただいているが、既にデジタル化の終わった青谷地域を参考にして、良い方法を検討したい。

保育園跡地の利活用について

平成31年4月に予定する保育園統合後の跡地の利活用について検討していきたい。

<市長による回答・意見>

- ・総合支所整備の推進について

来年度に設計業務について予算計上する予定である。公共設備の整備を有利な財源を活用しながら進めていきたい。

- ・防災行政無線のデジタル化に伴う地域内情報の伝達方法について

防災行政無線のデジタル化により、有事の際の放送がアナログ設備よりも数十秒早くなる。地震等の災害時には数十秒の違いが非常に大きな意味を持つので整備を順次進めていきたい。

地域内情報伝達設備の整備については、関係課が協議・検討しているところであり、来年度には具体的な内容を示したいと考える。

- ・保育園跡地の利活用について

有効的な活用方法について、地域と一緒に考えていきたい。

河原地域振興会議 竹田会長(14:49~15:01)

可燃物処理場について

昨年8月に実施した京都市北部クリーンセンターでの視察では、公害等もないようで安心できた。

山手工業団地・布袋工業団地について

今月、各工業団地内の企業視察を予定しているが、各企業とも人手不足と聞いている。雇用面の協力をお願いする。

河原町コミュニティセンターについて

利用者が増えてきているが、施設の老朽化により、雨漏り、空調設備や耐震問題等、ハード面の整備が必要となっており、対応してほしい。

三滝林間施設について

現在、指定管理は地域外の事業者であり、地元との連携がうまく取れていないようである。施設の老朽化に加え、昨年10月の県中部地震により被災し修繕が必要な状況である。従前どおり皆さんに喜んでもらえるような施設にしたいと考えているので協力をお願いする。

人口減少対策

合併当時より人口が毎年約100名減少しており、空き家問題も含め対策が必要と考えている。

<市長による回答・意見>

- ・可燃物処理場について

可燃物処理場の建設については、河原地域の皆様のご理解とご協力で改めて感謝申し上げます。

- ・山手工業団地・布袋工業団地について
非常に素晴らしい企業が揃っていると感じている。今後も工業団地の整備を進め、人口減少に歯止めがかかることを期待している。
- ・河原町コミュニティセンターについて
施設の状況を踏まえ、地域の皆様のご意見も伺いながら整備について検討していきたい。
- ・三滝林間施設について
県中部地震での被災により、安全性を考慮すると閉鎖も考えないといけない状況である。集客力を考えると大規模改修は難しいものの、貴重な地域資源であることを勘案し、状況に応じて整備について検討していきたい。

福部地域振興会議 上山副会長（15：01～15：19）

福部未来学園について

昨年4月の開校以降、全国的に関心が高く、視察が相次いでいる。学園の特徴として、新科目である「みらい科」を設け、人間力および国際コミュニケーション力の向上を目指している。（写真により説明）

平成30年4月からは校舎の一体化により、園児・児童・生徒が同じ校舎で学ぶ予定であり、非常に期待している。学園運営協議会にも地域が入り込んでおり、地域全体で関わりを持っている。学園に関わってくださる地域の方の育成についても行政と協力しながら進めていきたいのでよろしくお願いします。

行方不明者について

福部地域では昨年と一昨年に行方不明者が発生したが、公表できる情報が少なく捜索が難航した。このような事態を未然に防ぐ取組として、監視カメラ等の設置や見守り体制の構築が考えられるため、ハード面について行政の協力をいただきながら進めたい。

砂丘観光について

近年外国人観光客が増えてきているが、外国語看板が少ないため地域資源を十分に活かしきれていない。冬季は砂の美術館では砂像の展示をしていないため、冬季用の観光資源の開発が必要ではないか。それぞれの対策を検討してほしい。

<市長による回答・意見>

・福部未来学園について

地域はもとより国内外で活躍できる人材を本市から輩出したいと考えている。本市としても地方創生の第一の柱として、次世代の本市を担うひとづくりを掲げており、中学生を英語圏へ派遣し異文化交流を通して関心を持ってもらう試みも行っている。この幼小中一貫校での先進的な取組に期待しているし、市も一緒になって取り組んでいきたい。

・行方不明者について

更なる高齢社会を迎えるにあたり、国が提唱する「地域包括ケアシステム」の取組が重要となる。本市としては平成27年度より職員を県東部医師会に派遣し、県の東部圏域での仕組づくりを進めている。防犯カメラの設置も手段ではあるが、地域での助け合いや安否確認を行う仕組みづくりも重要と考える。地域の皆様と一緒に考えていきたい。

・砂丘観光について

訪日外国人観光客が年間2,400万人を超える中、本市を訪れる外国人観光客の方も増えており、本市においてもインバウンド対策をしっかりと行っていく必要があると考える。外国語表記については、鳥取県東部および兵庫県北但西部の広域観光施策の一環で、スマホやタブレットで砂丘周辺の観光情報を確認できる仕組みがあり、引き続きインバウンド対策を行っていきたい。

砂の美術館については、冬季期間中に砂像の展示に代わるものを考えていかなければならないと感じている。地域でもいとお知恵があれば教えてほしい。

国府地域振興会議 森原会長（15：19～15：35）

中河原線等バス路線の再編について

バス路線の再編により、若干混乱している利用者もあるが、運転手の対応が良く、概ね評判は良い。バスの乗り換え等、円滑な乗り継ぎや利便性の向上へ改善が必要な点もあるので、交通政策課と協議していきたい。

新設した国府線（因幡万葉歴史館 - 市立病院）は利用者が少なく廃止になるのは、仕方がないが残念に思う。

ツキノワグマ対策について

昨年10月、自身がクマに襲われ怪我をした。県は動物保護や個体数維持の観点から、積極的な殺処分を行わないが、個体数の増加で被害の増大に繋がった面があると思う。市からも県に対し兵庫県や岡山県のよ

うに個体数の減少に向けた取組を行うよう要請してほしい。

<市長による回答・意見>

・中河原線等バス路線の再編について

利用率の向上が今後の課題だが、バス事業者の臨機応変な対応は、公共交通の維持確保に重要と考える。

・ツキノワグマ対策について

平成22年に用瀬地域でクマ出没による人的被害が発生した際には、県に対し個体数減に取り組むよう要請した。当時は中国山系には個体数が少ないという認識で、保護しなければならないという風潮だったが、現在はむしろ増えてきていると思われる。現実の人的被害により、クマ捕獲の取組を講じる必要があると考え、県に対して引き続き要請していきたい。

4. その他（15：35～15：39）

（気高 鈴木支所長）「しょうがぼかぼかフェスタ2017」について

（用瀬 田中支所長）「三角山登山会」について

5. 閉会（15：39）